

## 新しい基本構想を考えるプロジェクトチーム

チーム名 自治・共生・活力

標 題	<p>ゆるやかなつながりで「なかの暮らし」を実感できるまち ～ひとり暮らしも二人暮らしもそれ以上暮らしも～</p>	
現在の状態	<p>6月2日に実施した区民と職員の基本構想ワークショップでは、区民から「地域のつながりの希薄化」が課題・不安として多数あげられた。</p> <p>中野区の長期的な傾向としては、単身世帯割合の高さ、若い世代(20代～30代)の人口比率の高さ、人口密度の高さ、持ち家比率の低さ等があげられる。中野区の人口のマスは「若い世代の単身者」にあり、彼らに潜在する「地域とつながりたい」という意識へいかに訴えられるかが重要である。とはいえマンション・アパート住まいでは隣に住んでいるのが誰か分らず、回覧板が回ってこない世帯も多い。</p> <p>地域における「つながり」のキッカケとして祭り等のイベントが行われているが、一過性な点のつながりになりがちで、開催者側の負担も大きい。区民意識調査では地域と関わらない理由の大半は「活動する時間がない」であり、特に若い世代においてその傾向が強い。開催者・参加者各自にとっての負担を軽減させ、持続的な活動としていく必要がある。そのためには、多数の参加者が集まり、各自が時間にゆとりがある時に、いつでも参加ができるような「ゆるやかなつながり」が必要となる。</p> <p>つながりを生むためには打ち解けるための場所が必要だが、その場所が生活の中に溶け込んでいないと区民には届き辛い。区有施設・空き家等を活用する場合も、そこで行う活動に発信力が無ければ伝わらない。区民意識調査では若い世代ほど区政情報が得られていないと回答している。</p> <p>また「ゆるやかなつながり」を生むためには、打ち解けるためのキッカケが必要である。区内には専門的な技術・知識をもち、人を動かす力のある「インフルエンサー(地域人材)」が住んでいるものの、こうした人材の活用は一部事業にとどまっている。</p>	
強 み		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「若い世代の単身者」に人口のマスがある。</li> <li>● コンビニが多く、500m圏の人口カバー率は100%である。またセブンイレブンと23区で初となる連携協定を締結している。</li> <li>● 小さな公園が点在しており、住宅と公園が密接である。</li> <li>● 多様な魅力をもつ「インフルエンサー」が住んでいる。</li> </ul>
弱 み		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域とのつながりが希薄。つながりのきっかけがない。</li> <li>● 地域での交流について、時間がない・興味を持ちづらい人が多い。</li> <li>● 都心であるが故、交流できるスペースを確保・作ることが難しい。</li> <li>● 各課が地域人材を活用しているが、情報が集約されていない。</li> </ul>

## 将来像

### 【10年後にめざす姿】

- 生活の中に溶け込んだ「地域の拠点」において、多世代にわたる「ゆるやかなつながり」が生まれている。
  - 区民の生活に溶け込んでいるコンビニや公園等の拠点を活用した地域の交流づくりが図られている。
  - こども食堂・高齢者食堂を参考としつつ、誰もが食を通じてゆるやかに繋がれる仕組みが地域拠点にある。
  - 世帯への「訪問型」アウトリーチだけでなく、多くの区民の目に触れる「地域拠点型」のアウトリーチや行政サービス・情報発信が行われている。
  - 地域団体が「地域拠点」を通じて、より多くの情報を地域に発信している。
  - 地域拠点でのゆるやかなつながりがきっかけとなり、既存の地域活動への参加に発展している。
  
- さまざまな分野の「インフルエンサー」を経由し、各地域内において「ゆるやかなつながり」が生まれている。
  - 区は「インフルエンサー（地域人材）」の把握に努めながら、彼らが地域で活動しやすいような土台づくりを行っている。
  - インフルエンサーは、統廃合校や商店街空き店舗・空き家を活用し、勉強会や地域イベント等を行うことで、地域内のつながりを生むきっかけを生み出している。
  - 区民は、インフルエンサーをきっかけとして得た「ゆるいつながり」をさらに重層的なつながりとし、どのような形態の世帯であっても孤立することがない安心・安全を実感できるつながりを実感できている。